

新生！産技研 “責任持つ”支援を重視

古寺 雅晴

地方独立行政法人 大阪府立産業技術総合研究所 理事長
連絡先: furutera@tri-osaka.jp



大阪府立産業技術総合研究所（以下、産技研）は、平成 24 年 4 月 1 日に地方独立行政法人に移行しました。私は、その初代理事長となりますが、産技研の地方独立行政法人としての新たな出発にあたり、民間からのトップ登用という方針の知事の任命を受け、4 月 1 日に就任しました。また、ニューセラミックス懇話会においては、副会長を務めることとなりました。会員の皆様には、よろしくお願い申し上げます。

さて、私は産技研理事長に就任する以前は、日立造船で様々な製品の研究開発を実施してきました。研究者としての立場から、後半は、研究所長、さらに事業・製品開発本部長や技監という技術経営の役割をも歴任しました。顧客視点の開発テーマは何かとか、企業の将来の事業・産業を見据えた研究開発はどうあるべきか、ということ在必死に考え抜いてきた訳ですが、その経験・知見を活かしながら、産技研が中小企業のものづくりを主体的に支援するための変革の口火を切っていきたいと考えています。

大阪、ひいては関西のものづくりを発展させるため、産技研は、今まで以上に、利用してくださる企業への支援に「主体的に責任をもつ」ことが求められていると考えています。産技研の定款第一条には、産技研の目的として、中小企業を支援すると書かれています。支援という言葉は脇役と捉えられがちですが、その解釈は間違いです。主役として支援責任をもつことで、はじめて、企業に貢献し、大阪産業の発展に貢献していると胸を張ることができるはずです。

そこで、私たちは、今後の産技研の活動について、2 つの取り組みを約束しています。1 つめは、ものづくりの中核を担っておられる中小企業の皆様を中心に、提案によるソリューション型支援を積極的に進めることです。ソリューションとは、顧客が困っている課題を解決する意味ですが、要はワンストップサービスで対応する総合的・体系的な「攻め」の企業支援を具体化することです。

2 つめは、オープンイノベーション体制の構築への取り組みです。私たちはこのオープンイノベーション体制構築を「つなぐ取り組み」と称していますが、府内の中小企業の皆様が人材育成、ものづくりの技術開発、そしてその事業化までの一貫したビジネスへの取り組みにおいて、戦略的な方向性の下に関西がつながれていると実感できる体制の構築に貢献します。以上の二つの取り組みをスピードと柔軟性のもとに進めることが、自律した地方独立法人化の大きな意義であろうと思っています。

ニューセラミックス懇話会は、セラミックスを中心とした研究者・技術者等が相互に交流を深めている伝統ある産学官連携組織です。産技研にとっても、産学官連携事業は、重要な業務と位置づけています。

これらの取り組みを着実に進め、大阪産業の発展のお役にたてるよう、より一層努力してまいりますので、今後ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。